

2022年3月期第1四半期
決算説明会
要旨

開催日時：2021年8月6日（金）15：00～16：00

旭化成株式会社

予想・見通しに関する注意事項

当資料に記載されている予想・見通しは、種々の前提に基づくものであり、将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

会社側参加者：

取締役 兼常務執行役員 工藤
経理部長 佐藤
基盤マテリアル事業本部 企画管理部長 高橋
パフォーマンスプロダクツ事業本部 企画管理部長 山口
スペシャルティソリューション事業本部 企画管理部長 杉山
スペシャルティソリューション事業本部 セパレータ事業統括部長 石川
旭化成エレクトロニクス 企画管理部長 川田
旭化成ホームズ 経営管理部長 坂井
旭化成ファーマ 経営統括総部 経営企画部長 木邊
I R 室長 濱本

P 4 主要決算数値

工藤 2021 年度第 1 四半期の売上高は 5,834 億円、営業利益は 605 億円、経常利益 652 億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は 464 億円で、全ての項目において第 1 四半期として過去最高となった。COVID-19 感染拡大による影響を大きく受けた 2020 年度第 1 四半期に比べ、「マテリアル」を中心に 3 セグメント全てで増収・増益となった。

2021 年度より「収益認識に関する会計基準」を適用し、一部の取引において売上高、売上原価の計上基準を変更したが、グループ全体の売上高、営業利益へ与える影響は軽微である。

P 5 セグメント別売上高・営業利益

「マテリアル」は、自動車関連市場が回復したことに加え、需要回復等を背景として石化製品市況が急速に上昇し、在庫受払差が益方向に発生したことなどから、大幅な増収・増益となった。

「住宅」は、McDonald Jones Homes Pty Ltd（以下、McDonald Jones）等の新規連結や、海外事業の好調な推移に加え、「収益認識に関する会計基準」の適用に伴い建築請負部門の売上高・営業利益が増加したことなどから、増収・増益となった。

なお、「収益認識に関する会計基準」の適用に伴う影響額は決算説明会資料の注釈に記載のとおりだ。「住宅」では、営業利益が 17 億 5,100 万円増加した。

「ヘルスケア」は、クリティカルケア事業において人工呼吸器の販売が減少したものの、除細動器等の主力事業が好調に推移したことに加え、医薬・医療事業も堅調に推移したことなどから、増収・増益となった。

P 6 連結損益計算書

売上高は 5,834 億円で、前年同期比で 1,283 億円の増収となった。売上総利益は 1,954

億円、粗利率は 33.5%で、0.6 ポイント改善した。販管費は 1,349 億円で、前年同期比で 151 億円増加した。McDonald Jones 等の新規連結影響に加え、研究開発費、物流費等が増加した。営業利益は 605 億円で、前年同期比で 304 億円の増益となり、ほぼ倍増した。結果として営業利益率は 10.4%で、前年同期比で 3.8 ポイント改善した。

営業外損益は 47 億円の益で、前年同期比で 45 億円改善した。アクリロニトリル（以下、AN）等を生産しているタイの PTT Asahi Chemical Company Limited の業績が改善したことなどから、持分法投資損益が 38 億円改善した。

特別損益は 32 億円の益で、前年同期比で 80 億円改善した。特別利益には、政策保有株式の売却による投資有価証券売却益や、McDonald Jones 買収に伴う段階取得による差益を計上した。McDonald Jones とは 2017 年に資本提携し、既に 40%の株式を保有していたが、追加で 40%の株式を取得し、2021 年度より連結子会社とした。特別損失には、旭化成エレクトロニクス（株）の半導体工場火災に関連する事業構造改善費用を計上した。主として、代替生産の立ち上げ費用だ。

税金等調整前四半期純利益は 684 億円で、前年同期比で 429 億円の増益となった。法人税等は 216 億円で、前年同期比で 105 億円増加した。税金等調整前四半期純利益の増加が主な要因だ。

親会社株主に帰属する四半期純利益は 464 億円で、前年同期比 328 億円の増益となった。

P 7 連結貸借対照表

2021 年 3 月末と 6 月末を比較すると、総資産は 568 億円増加した。「ヘルスケア」における Respicardia, Inc.（以下、Respicardia）の買収に伴うのれん等の計上に加え、設備投資に伴い有形固定資産が増加した。また、「収益認識に関する会計基準」の適用に伴い、契約資産が増加した一方、棚卸資産が減少した。

負債は 273 億円増加した。有利子負債が 409 億円増加したことが主な要因だ。

純資産は 295 億円増加した。利益剰余金が、配当支払いにより 236 億円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益 464 億円を計上したことにより増加した。

結果として D/E レシオは 0.02 ポイント増加し、0.47 となった。当社が目安とする 0.5 程度を維持している。

P 8 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは 302 億円のキャッシュ・インとなった。税金等調整前四半期純利益 684 億円、減価償却費 287 億円のキャッシュ・インや、未払費用の減少 203 億円のキャッシュ・アウトが主な項目だ。前年同期比では、税金等調整前四半期純利益が増加したが、売上高の回復に伴い売上債権等の運転資本が増加したことなどから、キ

キャッシュ・インが減少した。

投資活動によるキャッシュ・フローは 397 億円のキャッシュ・アウトとなった。主な項目は設備投資や Respicardia 買収に伴うキャッシュ・アウトだ。前年同期比でキャッシュ・アウトが増加している要因も Respicardia 等の買収だ。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いによるキャッシュ・アウトがあったが、資金調達の実行により、116 億円のキャッシュ・インとなった。

結果として、現金及び現金同等物の期末残高は 2,197 億円となった。

P10 2021 年度上期業績予想

2021 年度上期業績予想の売上高は 1 兆 1,980 億円、営業利益は 1,060 億円で、COVID-19 感染拡大前の 2019 年度上期を上回り、上期としては過去最高となる見通しだ。前年同期比では、マテリアルの業績回復を受け、増収・増益の計画だ。

2021 年 5 月に発表した予想（以下、前回予想）比では、売上高・営業利益は、第 1 四半期の業績が順調に推移したことに加え、円安の進行に伴い第 2 四半期の為替前提を見直したことから、「マテリアル」を中心に 3 セグメント全てで上方修正した。

親会社株主に帰属する四半期純利益は 720 億円の計画だ。上期予想では、Veloxis Pharmaceuticals Inc. 再編に伴って上期に約 240 億円の税金費用の軽減を見込んでいたが、デンマーク当局の手続きの関係により計上時期を上期から下期に見直したことに伴い、150 億円下方修正した。税金費用の見直しを除けば、親会社株主に帰属する四半期純利益の進捗も順調と考える。

1 株当たり配当金は、中間配当として 17 円を予想している。

P11 セグメント別売上高・営業利益予想

各セグメントにおける上期業績予想の前回予想からの上方修正について説明する。

「マテリアル」は、第 1 四半期の業績が順調に推移したことに加え、石化製品の市況が想定以上に上昇したことや、リチウムイオン電池（以下、LIB）用セパレータの好調な販売を見込んでいる。

「住宅」は、海外事業が好調に推移する見通しだ。

「ヘルスケア」は、クリティカルケア事業において除細動器や（着用型自動除細動器）「LifeVest」等の主力事業の好調な推移を予想している。

なお前年同期比では、営業利益は「マテリアル」で大きく回復、「住宅」は厳しい環境下でも前年同期並みを維持、「ヘルスケア」は人工呼吸器の特需があった前年同期比では減益となるものの、主力事業は堅調に推移している。

P13 セグメント別売上高・営業利益増減内訳

営業利益の増減要因として、「数量差」が最も大きく、214億円の増益要因となった。

「売値差」は、石化製品市況の上昇に伴い、為替因も含めて206億円の増益要因となった。一方で、「その他差」116億円には、原燃料価格上昇による減益要因と在庫受払差による増益要因が含まれている。「売値差」とこれらの増減益要因を足し合わせるとプラスとなることから、交易条件としては改善している。

P16 海外売上高

売上高5,834億円のうち、海外売上高は2,930億円で、海外売上高比率は50.2%となった。前年同期の海外売上高比率は41.0%で、近年は40%前後で推移していたが、2021年度第1四半期は50%を超える水準となった。このうち約8割が在外子会社の売上高で、約2割が日本からの輸出だ。

海外でのM&Aを進めており、買収した会社の成長に伴い海外売上高が伸びている。今後の中長期的には上昇傾向が続くだろう。

P19 事業別営業利益予想

2021年度第1四半期の営業利益605億円に対し、第2四半期予想は455億円で、150億円の減益予想だ。第1四半期では、基盤マテリアル事業において在庫受払差が益方向に発生したことや、クリティカルケア事業においてRespicardia買収の会計処理に関連する一時的な利益の計上があった。第2四半期では、医薬事業におけるライセンス導入費用など固定費の一時的な増加を見込むことなどから減益予想としているが、景気動向や海外市場の状況を含め、需要や事業を取り巻く環境に懸念があるものではない。第2四半期の営業利益予想は達成可能な水準と見ている。

通期の連結業績予想については、今回見直しを行っていない。決算短信に記載のとおり、通期営業利益予想1,900億円は、前回予想を表示している。下期については、為替、COVID-19感染拡大、半導体不足による自動車減産等の不安要素はあるものの、当社の事業に関して特段の懸念は今のところ見当たらず、概ね前回予想に沿って進捗すると見ている。

【質疑応答】

モルガン・スタンレーMUFU証券・渡部氏 「マテリアル」について、2020年度第4四半期から2021年度第1四半期、そして第2四半期にかけての3事業の動きを教えてください。また、在庫受払差の規模感も伺いたい。

高橋 基盤マテリアル事業について説明する。決算説明会資料28ページに四半期ごとの営業利益推移を記載しているので参照いただきたい。第4四半期の営業利益98億円に対し、第1四半期は101億円と横ばいだった。第1四半期は、水島製造所の定期修理が30～

40億円の減益要因となっている一方で、原料価格上昇によりそれを上回る在庫受払差が発生したことや、全般的に需要が好調であり、ANを始めとして市況も底堅かったことが増益要因となった。

山口 パフォーマンスプロダクツ事業では、需要は第4四半期から第1四半期、第2四半期にかけて堅調である。特に自動車関連市場が好調で、北米などで半導体不足の影響を受けているものの、基本的には順調に推移している。

第4四半期から第1四半期にかけての損益改善は交易条件の改善による要因が大きい。第4四半期は原材料価格が上昇し利益を圧迫したが、第1四半期にかけ販売価格への転嫁が進んだ。第1四半期から第2四半期に向けては減益の予想だ。一部の原材料価格のさらなる急上昇により交易条件が悪化することや、上期末にかけての固定費の発生、一部のプラントで定期修理による操業度差が生じることなどが要因だ。ただし需要としては自動車関連もそれ以外も好調である。

杉山 スペシャルティソリューション事業では、第4四半期から第1四半期にかけ、売上高は40億円の減収、営業利益は33億円の増益となった。減収となったのは旧高機能マテリアル系事業で、第4四半期に多かった交換膜のプラント販売が第1四半期には少なかったなど、一部事業の特殊要因によるものだ。セパレータ事業、電子部品事業はそれぞれ微増収で、堅調に推移している。

営業利益は、セパレータ事業等の堅調な推移に加え、年度末である第4四半期に固定費が多く発生したことなどから増益となった。

渡部氏 事業構造改革について伺いたい。5月の経営説明会の際、15の戦略再構築事業を選定したという説明があった。先般発表された欧州におけるスパンデックス事業の構造改革はその第1弾かと思う。この他にも2021年度中に「マテリアル」を中心に戦略再構築が行われるのか。それらの構造改革費用は予算に含まれているか。

工藤 欧州の件は、スパンデックス事業における構造改革の一環として決定した。15の戦略再構築事業については、戦略を見直して強化していく事業もあれば、撤退や他社とのアライアンスを検討していく事業もあり、時間軸はそれぞれ大きく異なる。2021年度中に方向性を示すことができる事業もあると思うが、必ずしも全て年度内に方向性が決まるわけではない。2022年度には新中期経営計画が始まるが、その発表の際には戦略再構築事業の進捗等についても説明したいと考えている。

みずほ証券・山田氏 「ヘルスケア」のクリティカルケア事業が好調のようだ。2020年度は第1四半期から第3四半期頃まで人工呼吸器の押し上げ効果があったと思うが、それを除いた事業の状況について、新しく買収したRespicardiaの影響を含めて説明してほしい。

2021 年度第 1 四半期から第 2 四半期にかけて減収・減益となる背景についても伺いたい。

工藤 2021 年度第 1 四半期は、人工呼吸器の販売が前年同期比で減少した一方、AED（自動体外式除細動器）や医療機関向け除細動器、「LifeVest」などの主力事業が順調に回復した。営業利益には Respicardia の買収に伴う会計処理の影響が増益要因として含まれるが、それを除いても好調に推移している。

第 2 四半期の営業利益は 71 億円と、第 1 四半期からは減益の予想であるが、Respicardia 買収の会計処理影響が無くなることや、「LifeVest」の受注が例年夏に低調となる傾向があることなどが要因である。COVID-19 の感染が再拡大している状況から、少し保守的に見ている部分もある。しかし足元では事業も順調に推移しており、クリティカルケア事業は引き続き拡大基調が続くと考えている。

山田氏 Respicardia 買収の会計処理の影響とはどのようなものか。

工藤 Respicardia 対し ZOLL が融資をしており、買収にあたり貸付分を買収価額の一部に充てる際、評価益が生じたものだ。

山田氏 それは営業利益に計上するのか。

佐藤 そのとおりだ。ZOLL が適用している米国会計基準では、今回のような貸付金の転換に関わる益は営業利益で処理することになっている。

山田氏 「住宅」について、2020 年度上期の受注が低調であった割には、2021 年度第 1 四半期の業績は堅調だった。その背景について伺いたい。また、4－7 月までの受注高の累計は前年同期比で大きく伸びている。高進捗と理解してよいか。

坂井 第 1 四半期は、「収益認識に関する会計基準」適用の影響があったが、それを除いても各事業が順調に推移をしている。建築請負部門も物件大型化等による平均単価上昇などで好調であった。前回予想に対しては、海外の事業が堅調に推移していることなどから上期予想を上方修正している。

第 1 四半期の受注高は、COVID-19 以前の 2019 年度とほぼ同等の水準となった。7 月は 2019 年度を若干上回っている。概ね想定した範囲で進捗している。

山田氏 住宅事業における海外事業等の営業利益は、2021 年度第 1 四半期で 24 億円となっている。これは前回予想の想定どおりであったか。また、建築請負部門の営業利益 57 億円のうち、会計基準変更の影響はあまり大きくないと考えるが、その理解で正しいか。

坂井 海外事業については、北米事業が好調で前回予想の想定を上回った。会計基準変更による影響額は若干上振れしたがほぼ想定どおりで、決算説明会資料 13 ページの注釈に記載のとおり、「住宅」においては売上高で 79 億円、営業利益で 18 億円程度の増加要因となっている。

山田氏 建築請負部門は、資材価格の高騰などがあっても利益が出るような状況になっているという理解でよいか。

坂井 そのとおりだ。

SMBC 日興証券・宮本氏 スペシャルティソリューション事業について、上期の営業利益を前回予想から 50 億円上方修正している。為替の影響が比較的大きな事業だと思うが、特どのあたりを上方修正したのか。セパレータ事業も上方修正したとのことだが、欧州の EV がかなり好調のようなので、御社の状況について詳しく教えてほしい。

杉山 上期について、前回予想から売上高は 90 億円、営業利益は 50 億円上方修正している。セパレータ事業、旧高機能マテリアル系事業を中心に、全体的に第 1 四半期の好調が続くという見込みだ。旧高機能マテリアル系事業では、巣ごもり需要が続いている IT デバイスや、半導体向けの製品が好調だ。また為替の影響も大きく、50 億円の営業利益上方修正のうち約半分が為替によるものだ。

石川 セパレータ事業も、上期は前回予想に対し売上高・営業利益ともに上方修正した。LIB 用湿式セパレータの好調が主な要因だ。民生用途は特に第 1 四半期が好調で、車載用途も欧州を含めて需要が旺盛である。前回予想では、2020 年度第 4 四半期に出荷が多かったことから生産が追いつかない懸念も織り込んでいたが、増設した生産ラインの前倒し稼働などにより上方修正につながった。

宮本氏 7月に欧州で自動車の脱内燃機関化をより推奨するような政策が発表された。御社としてもセパレータの需要はさらに増える見通しか。

石川 欧州の需要は今後も大きく伸びると見込んでおり、対応していくことを考える。

宮本氏 決算説明会資料 25 ページの医薬品の売上高に関して、(免疫抑制剤)「Envarsus XR」が 2020 年度第 4 四半期に一時的な要因で伸び悩んだとのことだったが、2021 年度第 1 四半期は前年同期比で 26%も伸びている。一時的な要因は解消して元の成長軌道に戻ったと見てよいか。第 2 四半期に向けても高い増収率が続くと見ているか。

濱本 2020 年度決算説明会で説明した一時的な要因は落ち着いてきている。従来「Envarsus XR」は高い成長率で伸びてきていたが、2020 年度は米国でも COVID-19 影響で MR の活動自粛等があり、病院で新たなプロトコルに採用されにくかったことや、他の薬剤からの切り替えが以前の水準にまで届かない状況であった。しかし、2021 年度第 1 四半期以降、新規腎移植の件数がまた増加しつつある中で、「Envarsus XR」が適用される患者も着実に増えてきている。引き続き中長期的には順調な成長を見込んでいる。

宮本氏 第 2 四半期に向けても高い増収率が続きそうか。

濱本 その理解で結構だ。

大和証券・梅林氏 主にパフォーマンスプロダクツ事業に関連すると思うが、自動車関連製品について、2020年度第4四半期から2021年度第1四半期、第2四半期にかけての動向を伺いたい。第1四半期は、前年同期比では当然大幅に伸びたと思うが、第4四半期との比較では伸びているのか。また、自動車メーカーにおいて半導体不足による減産が行われているが、御社以外の自動車関連部材メーカーにおいても、減産の影響は感じられないほどに自動車向け材料が出荷されているようだ。パフォーマンスプロダクツ事業は第1四半期から第2四半期で減益予想だが、第1四半期に販売しすぎた反動減を第2四半期に見込んでいるのか。

山口 グローバルの自動車生産台数は前回予想から若干下振れすると見ている。上期に生産が減少し、下期に挽回すると予想している。

しかし、特に日系の自動車メーカーやアジア市場向けの需要は好調で、当社も生産が追い付かないほどだ。したがって、半導体不足による自動車減産の影響を若干受けても、エンジニアリング樹脂や(人工皮革)「ラムース」等主力となる自動車関連製品の販売数量が減少することは見込んでいない。一方で、北米の自動車メーカーは半導体の調達に苦労しているようで、北米事業においては若干影響を受けている。

営業利益は第1四半期から第2四半期にかけて減益を予想しているが、交易条件の悪化や固定費の増加などが要因であり、販売数量は第4四半期から第1四半期、第2四半期にかけては減少しない。むしろ、北米事業が回復してくれば、上乗せ要因になると考えている。

梅林氏 第1四半期において、特に前倒し出荷はしていないと理解してよいか。

山口 そのとおりだ。ただし自動車市場の好調以上に、当社製品に対する引き合いが増えている可能性はあり、流通在庫が膨らんでいないか注視している。当面はその要因による反動で販売数量が減少することは想定していない。

梅林氏 セパレータ事業について、第4四半期は民生用途の需要が非常に強く、第1四半期は生産が追い付かないことを含めて販売数量はあまり伸びない想定と伺っていた。しかし引き続き需要は強く、最終製品の生産状況等と比較しても好調な状況が続いているようだ。セパレータ事業に関しても、前倒し出荷の反動減が起こる可能性について伺いたい。

石川 民生用途では、中国のスマートフォン向け需要が第4四半期、第1四半期にかけて旺盛だったが、流通在庫が膨らんでおり需要は今後若干落ちるのではないかと予想している。一方で、車載用途では、欧州向けも含め需要は堅調と予想している。

野村証券・岡寄氏 住宅事業について、「収益認識に関する会計基準」適用に伴い第1四半期において営業利益が18億円増加したとのことだが、第2四半期以降には発生しないの

か。また、決算説明会資料 22 ページにおいて海外事業他の営業利益が増加している。これは McDonald Jones 買収の影響だと思うが、McDonald Jones のオーガニックな成長の状況や、豪州の住宅市場の動向を伺いたい。

坂井 ご指摘の通り、第 1 四半期で「収益認識に関する会計基準」適用による増益の影響があった。第 2 四半期においても営業利益が若干増加する影響があると予想しているが、第 1 四半期ほど大きな金額ではないと見込んでいる。

海外事業については、豪州事業を含め前回予想に対して順調に推移している。

岡崎氏 「収益認識に関する会計基準」適用は、前回予想ですでに前提として織り込まれていたのか。また、豪州事業では COVID-19 の影響等について懸念はないか。

坂井 「収益認識に関する会計基準」適用は、前回予想にも織り込んではいた。

豪州事業における COVID-19 の影響については、足元では工事の一時停止などを懸念しているが、長期的にはそれほど影響はないと見ている。

岡崎氏 クリティカルケア事業について、第 1 四半期における医療機関向け除細動器や「LifeVest」の前年同期比での伸び率と、第 2 四半期の見通しを伺いたい。

濱本 比率の開示は控えるが、2019 年度通期と 2020 年度通期を比較すると、クリティカルケア事業は 490 億円の増収で、大部分が人工呼吸器による貢献であり、その半分以上は上期に発生した。ただし、2020 年度第 1 四半期は人工呼吸器の貢献がまだそれほど大きくなかったこともあり、2021 年度第 1 四半期では人工呼吸器の販売減少を除細動器や「LifeVest」の伸びが上回った。

第 2 四半期も除細動器や「LifeVest」の伸びは続くが、2020 年度における人工呼吸器の出荷は第 2 四半期が最も多かったため、そこからの販売減少をカバーしきれず、前年同期比減収・減益を見込んでいる。

岡崎氏 COVID-19 感染拡大前は 10%前後の伸び率だったと思うが、そのような伸び率に回復するのか。

濱本 ご理解のとおりだ。除細動器や「LifeVest」は COVID-19 による影響を受けたが、足元ではしっかりと需要が戻ってきており、COVID-19 感染拡大前の伸び率に回復すると想定している。

UBS 証券・大村氏 住宅事業に関して伺いたい。この数年間で集合住宅を取り巻く事業環境に変化が起きていると思う。御社の住宅事業には追い風になると認識しているが、集合住宅における受注環境をどのように認識しているか。また、集合住宅が順調に伸びているが、今後数年間ではどの程度の伸び率を期待しているのか。

坂井 集合住宅の受注環境は全体的には順調に推移しており、今後も伸ばしていこうと取

り組んでいる。特に、付加価値型の賃貸住宅など大型物件を伸ばしていく方向であり、それに伴い平均単価も上昇している。

日本の人口動態に応じて住宅着工戸数は減少していく見通しで、集合住宅も同様の環境下にあるが、戸建住宅、集合住宅ともに当社のシェアをまだ伸ばす余地があると認識している。

大村氏 COVID-19による影響を受け、受注環境や需要動向に何か変化を感じるか。

坂井 需要動向については大きな変化はないが、集客構造は大きく変わった。以前は展示場での集客が中心だったが、今はウェブサイト等を通じたオンライン集客を実施している。

野村証券・岡崎氏 AN市況およびスプレッドの第1四半期実績、第2四半期前提を教えてください。併せて今後の需給感の見方を伺いたい。

高橋 第1四半期の実績は、AN市況 2,709ドル/トン、プロピレン市況 1,069ドル/トン、スプレッド 1,640ドル/トンで、前回予想の上期前提より高かった。今回、第2四半期前提は、AN市況 2,100ドル/トン、プロピレン市況 1,000ドル/トン、スプレッド 1,100ドル/トンで見ている。

スプレッドは、米国における寒波の影響等で高い水準にあった第1四半期からは徐々に下がってきているが、定期修理やトラブル等で想定よりも若干高止まりしている。下期に向けては、堅調な需要が続くものの、定期修理の完了や中国の新工場稼働などにより需給は落ち着いていくと見ている。中国の新工場については、来年度などに予定されていた案件が、現在の好況を受けて前倒しで稼働する可能性もあると見て動向を注視しているが、需要は堅調なため、需給としては安定的に推移すると見ている。

当社の稼働は、定期修理を除くと基本的にはフル稼働だ。

モルガン・スタンレーMUFJ証券・渡部氏 基盤マテリアル事業に関して、第1四半期における在庫受払差による増益は定期修理による30~40億円の減益を上回ったと説明があったが、どの程度の規模だったのか。また、2020年度第1四半期との比較についても伺いたい。

高橋 在庫受払差が増益要因となる一方で、価格への転嫁が遅れるという影響もあり、明確な数字は申し上げにくい。2020年度第1四半期は市況が急激に落ちており、在庫の影響としては今年度と逆の状況だった。

渡部氏 前年同期比で、在庫受払差により例えば100億円程度の増益だとすると、それ以外の要素による増益はあまり無いように見える。AN市況改善等の増益要因もあったと思うが、どのような状況だったのか。

高橋 定期修理等が減益の要因となっている。販売量が減少する影響もある。

渡部氏 パフォーマンスプロダクツ事業では在庫受払差による影響は無かったか。

山口 全体として影響はあったが、特筆するほど大きなものはない。

濱本 以上で電話会議を終了する。ご参加ありがとうございました。

[終了]